玉川英則　著書・論文・研究報告リスト（共著含む）

１．土地利用形態分析・空間統計・都市解析基礎関連

①「土地利用の秩序性の数理的表現に関する考察」　『都市計画論文集』 No.17,1982.11,pp.73-78
②「都市内における土地利用パターン及びその変化の計量的分析　－高崎市域並びに高崎市昭和35年ＤＩＤ内を対象として－」　『都市計画論文集』 No.19,1984.11,pp.343-348
③「都市内における土地利用の秩序性の計量的表現に関する研究」　博士（工学、東京大学）学位論文,1987.3
④「土地利用比率の同質性からみた最適メッシュ規模に関する考察」　『都市計画論文集』 No.22,1987.11,pp.229-234
⑤「メッシュデータによる新潟市の土地利用分析」　『日本建築学会北陸支部研究報告集』 第31号,1988.6,pp.275-278
⑥「連続変量の最適メッシュ区分について　－メンタルマップを用いてのケーススタディ」『都市計画論文集』 No.23,1988.11,pp.37-42
⑦「あるＡＩＣ利用者のホンネ　－２つの拙稿の周辺スケッチ－」　『都市計画』 第161号, 1989.12,pp.20-23
⑧「形態的特性の表現を中心とした土地利用分析手法について」　『総合都市研究』 第50号, 1993.9,pp.121-136
⑨「土地利用の分析論と計画論の接点に関するノート」　『総合都市研究』 第55号,1995.3, pp.89-101
⑩「ポリゴンデータを用いた大都市幹線道路周辺市街地の空間構造分析」、『地理情報システム学会講演論文集』　Vol.6, 1997.10, pp.267-270
⑪「都市空間分析ツールとしてのコンピュータ利用」、『都市計画』　第211号（Vol.46/No.6）,　1998.2, pp.21-24
⑫"A Study on the Urban Building Pattern and Its Change along the Main Road By GIS, Virtual Conference of GISA (VCGIS'98, GISA) ,1998.4,http://www.mm.ics.saitama-u.ac. jp/~vcgis/vcgis/
⑬「物理学から生物学へ!?　－ある夫婦の会話」,『建築雑誌』No.1424, 1998.7, pp.18-19
⑭"A Study on the Spatial Structure of Individual Residence Buildings and Its Change Along the Main Road by GIS", Thirteenth Annual Conference on Geographic Information Systems (GIS'99 in Vancouver), 1999.3,pp.200-206
⑮"A Study on the Urban Building Pattern and Its Change along the Main Road By GIS", JURNAL PENELITIAN DAN KARYAILMIAH, Lembaga Penelitian University Trisakti, 1999.8, pp.43-55（⑫のフル・ペーパー版）
⑯「ポテンシャルコンターを用いた道路と土地利用変化の関連性の分析」、『ＧＩＳ－理論と応用』 Vol.8, No.2, 2000.9, pp.61-67
⑰「土地利用パターンシミュレーションモデルの複合化とそのインプリケーション」『日本都市計画学会学術研究論文集』第35号, 2000.11, pp.1039-44
⑱「空間としての都市」　『都市の科学』（東京都立大学都市研究叢書第21巻）、東京都立大学出版会、2002.3, pp.17-28
⑲「都市空間を分析する」　『都市の科学』（東京都立大学都市研究叢書第21巻）、東京都立大学出版会、2002.3, pp.41-76
⑳「3次元土地利用における隣接度指標の導出とその応用」『都市計画論文集』第38号、pp.139-144, 2003.11.
(21)『改訂増補版　都市の科学』（東京都立大学都市研究叢書第 27 巻）、東京都立大学出版会、2005.3, 共同編集及び「空間としての都市」pp.27-39,「都市空間を分析する」pp.41-76 の執筆
(22)「再帰的過程と後背地の効果を組み入れた確定的ハフモデルによる圏域設定、『都市計画論文集』 No.42-3, 2007.10, pp.475-480
(23) "A Compound Simulation Model of Land Use Patterns and its Implications", Part1-Chapter2 in *The New Frontier in Urban Analysis*, eds. by Y. Asami, Y. Sadahiro and T. Ishikawa, CRC, 2009.6
(24) "The Implications of Using a Gravity Model to Determine Territory in a Circular Domain",Hidenori Tamagawa, Procedia - Social and Behavioral Sciences Volume 21 (International Conference: Spatial Thinking and Geographic Information Sciences), Pages 167-176, 2011.9
(25) "The implications of using a gravity model to determine territory in a circular domain", Hidenori Tamagawa, *Environment and Planning B: Planning and Design*, Nov. 2012, volume 39, pp. 978-990 ((24)の審査付きフル・ペーパー版)
(26)　"A Study on Building Use Patterns by Agglomeration", Masahiro KAMEYAMA and Hidenori TAMAGAWA, 2015 KAGIS Fall Conference for the Value of Geo-spatial Information in the Date-Technology Era, Pukyong University in Korea, Nov.201 5.
(27) 亀山正廣・玉川英則　「３次元空間における２種類の連係係数を考慮した建物用途の集塊特性に関する考察」、『都市計画論文集』、51-3、pp.501-506、2016.11

(28) 見城紳・玉川英則　「コンパクトシティ政策と空閑地の緑地転換利用政策の両立可能性の分析　-マルチエージェントシミュレーションを用いて」、『都市計画論文集』、52-1、pp.28-35、2017.04

２．土地利用制度・政策関連

①「東京都における 1992 年法改正に伴う用途地域見直しの実態に関する研究（その１）－地域別に見た住居系用途地域指定の動向－」　『日本建築学会大会学術講演梗概集　Ｆ－１』 1995.8,pp.723-724
②「バブル期における土地取引の特性　－東京都内を対象として－」　『総合都市研究』 第 58 号,1996.3,pp.21-30
③「東京都における 1994 年用途地域改定の実態と課題」　『総合都市研究』 第 59 号,1996.9, pp.59-84
④「改正用途地域制度による住居系市街地の規制強化型見直しの実態に関する研究」　『都市計画論文集』　第 31 号,1996.11,pp.505-510
⑤「地価高騰期における東京都内の住宅系土地利用の変化」　『総合都市研究』第 62 号,1997.3,pp.5-29
⑥「土地利用・建物ＧＩＳデータ分析による 1996 年用途地域見直しの特徴　－世田谷区を対象に」、『日本建築学会大会学術講演梗概集　F-1』 、1998.9,pp.191-192
⑦「土地利用変容のＧＩＳ分析から見た東京区部西部における 1996 年用途地域指定替えの実態に関する研究」　都市計画論文集　第 34 号, 1999.11, pp.853-858
⑧‘Urban Renovations in Tokyo - the traditional solutions and another one’, International Seminar on Innovation Cases of Mega City, 2006.12.4 (Seoul)
⑨「『筑波敷地条例』による敷地台帳の 26 年間の運用の変遷とその評価」（河中俊）に対する評論、『日本建築学会技術報告集』 第 13 巻 第 26 号, 2007.9, p.887
⑩「都市における屋上緑化と建物用途・規模の関連性に関する研究　世田谷区三軒茶屋におけるケーススタディ」, 2012 年日本建築学会大会学術講演梗概集, 角谷学・玉川英則, pp.967-68, 2012 年９月
⑪「街づくり事業地区における細街路整備手法と市街地の地域的特徴との関係」、山崎明子・玉川英則・中林一樹、日本建築学会計画系論文集、第 694 号、pp.2547-56、2013.12

３．都市景観関連

①「街路景観の類型に関する基礎研究　－新潟市の昼と夜を対象として－」　『日本建築学会北陸支部研究報告集』 第 30 号,1987.6,pp.241-244
②「都市景観の識別度に関する昼と夜の比較研究」　『日本建築学会計画系論文報告集』 第 388 号,1988.6,pp.79-85
③「近世以前の水墨画にみる水辺の景観構成について」　『都市計画論文集』 No.25,1990.11, pp.667-672
④「リゾートマンションの設計コンセプトと色彩との関係について」　『都市計画論文集』 No.27,1992.11,pp.703-708
⑤「アイストップの景観に関する研究　－その心理的影響の考察」　『日本建築学会北陸支部研究報告集』 第 37 号,1994.6,pp.399-402
⑥「『新潟』をめぐる種々のテキスト景観について」　『テキストの景観』（日本建築学会大会都市計画部門研究懇談会資料）,1996.9, pp.50-51
⑦「視点場の類型化による都市景観解析－国分寺崖線の高層マンションを対象に－」『地理情報システム学会講演論文集』 Vol.14,2005.10,pp.515-520
建築学会　技術報告集　評論　日本建築学会技術報告集　第 15 巻 第 29 号, 355, 2009 年 2 月
⑧「タバコのポイ捨てポテンシャルの分布構造　仙台市中心部のアーケード街を対象として」（高橋祐平, 石坂公一, 小地沢将之）に対する評論、『日本建築学会技術報告集』 第 15 巻 第 29 号, 2009.2, p.355

４．都市・地域イメージ・空間認知関連

①”A Study on Psychological Maps of Five Former Japanese Castle Townsin terms of Topophilia”　『日本建築学会計画系論文報告集』 第 425 号,1991.7,pp.73-85
②「ＡＩＣ回帰モデルを利用した距離・時間認知とイメージに関する研究」　『都市計画論文集』 No.28,1993.11,pp.421-426
③「新潟市のイメージ構造に関する研究」　『日本建築学会北陸支部研究報告集』 第 36 号,1993.6,pp.443-446
④「新潟都市圏　環日本海の拠点をめざして」　『土木学会誌』別冊増刊　Vol.79-7,1994.5, pp.80-83
⑤「新潟県の地方紙にみる“裏日本”という言葉の変遷とその背景」　『日本建築学会計画系論文報告集』 No.463,1994.6,pp.133-138
⑥「映像媒体による新潟の地域イメージの解読」　『日本建築学会大会学術講演梗概集Ｆ』, 1994.9,pp.219-220
⑦「首都圏若年層からみた地方都市のイメージについて」　『地域像と計画のパースペクティブ　－都市計画の再構築をめざして－』（日本建築学会大会都市計画部門研究協議会資料）, 1

995.9,pp.168-171
⑧「フォトランゲージによる都市イメージの形成プロセスに関する研究　－都市イメージ評価ポイントに関する分析」、『日本建築学会計画系論文集』、第 508 号、1998.7,pp.145-152
⑨「フォトランゲージによる都市イメージ評価の視点の変化に関する研究」
『日本建築学会計画系論文集』　第 524 号，1999.10，pp.247-252
⑩「古地図における歪みの意味付けと補正モデルの構築に関する基礎的研究」、『ＧＩＳ－理論と応用』、Vol.12-No.1、pp.23-33、2004.7
⑪「二種類の住所表示体系での検索時間に関する比較実証分析」　『ＧＩＳ－理論と応用』，vol.15-no.1，2007.6，pp.13-22
⑫「街路パターンと空間認知の関係性に関する研究-田園調布駅周辺を対象として-」、平野有良・玉川英則、2011 年日本建築学会大会学術講演梗概集 F1、pp.829-830

５．都市空間と犯罪

①「新潟東署管内における都市空間構成と犯罪の関連性に関する研究」　『日本建築学会北陸支部研究報告集』 第 34 号,1991.6,pp.313-316
②「新潟西地区における社会・空間構成と犯罪の関連性に関する研究」　『地理情報システム学会講演論文集』 Vol.1,1992.10,pp.56-59
③「新潟市における犯罪の分布と地区の利便性に関する研究」　『日本建築学会北陸支部研究報告集』 第 36 号,1993.6,pp.451-454
④「新潟市ＤＩＤ内における犯罪分布と地区の利便性との関連に関する研究」『都市計画論文集』 No.28,1993.11,pp.187-192
⑤「犯罪の少ないまち」『講座　あたらしい自治体の設計』・第２巻『都市再生のデザイン』第７章、有斐閣、2003.10.
⑥「都市と犯罪の実態」『日本不動産学会誌』　No.73，Vol.19-No.2,2005.11,pp.101-106
⑦「ひったくり事件の発生に影響する都道府県の特性」、『日本法科学技術学会誌第 12 回学術集会講演要旨集』、2006.9,p.158
⑧「発生時間帯からみたひったくり事件の地域的特徴に関する研究―東京 23 区内の認知件から―」、粕谷巧・玉川英則、『都市科学研究』、第４号
⑨ “A study on the relations between criminal behaviors in purse-snatching and urban spaces”, Takumi Kasuya and Hidenori Tamagawa, *International Journal of Urban Sciences*, 16, pp. 279-300, Nov. 2012

６．都市論（？）等

①「都市および都市計画の変革に向けて」　『伝統と現代』 第 69 号,1981,pp.95-103
②「問題山積み・リゾート元年」　『建築文化』 511 号,1989.5,pp.186-187
③「新潟発　－”アイデンティティ症候群”を超えて」　『建築文化』 521 号,1990.3,pp.16
④「近代都市計画へのアンチテーゼ　－Jane Jacobs 訪問」「都市の陰、都市計画の陰」　『都市計画』　第 207 号（Vol.46/No.2），1997.7，pp.7-12（インタビュー）
⑤「共同体、都市、そして浮遊する郊外」，『都市計画』第 207 号（Vol.46/No.2），1997.7，pp.21-30（座談会）
⑥「あるミニマム市民と都市計画のミニマム」，『建築とまちづくり』　249 号，1997.12，pp.12-15
⑦「ポピュラーソングにみる『空間』の情景」，『建築雑誌』No.1470，2001.4，pp.54-57
⑧「追悼－ジェーン・ジェイコブズ」、『都市計画』261 号,2006.6,p.78
⑨「素顔の J.ジェイコブズ 素顔の現代日本」、『地域開発』503 号，2006.8,pp.10-13
⑩『都市の本質とゆくえ』、宮崎洋司・玉川英則、鹿島出版会、2011 年５月
⑪"Seoul-Tokyo, identity and exchange in the usual and emergence", Hidenori TAMAGAWA, Seoul-Tokyo Joint Seminar 2011 “Current Issues on Urban Affair of Capital City Seoul and Tokyo” on 2011.9.26 at UOS in Seoul
⑫"The Japanese current status and future outlook of Urban Sciences", Hidenori Tamagawa, The retrospects and prospects of Urban Sciences -15th anniversary of College of Urban Sciences and 30th anniversary of Graduate School of Urban Sciences, at UOS in Seoul, 2011.10
⑬『常識の天才　ジェイン・ジェイコブズ』（原書：*Genius of Common Sense* (G. Lang and M. Wunsch)），玉川英則・玉川良重訳，鹿島出版会，2012 年６月
⑭Hidenori TAMAGAWA, “Interdisciplinary global educational exchange program on urban issues in Asian region”, Special session on international education in Tokyo-Seoul Joint Seminar 2012 at TMU, 2012.11.2
⑮『日本の一般市街地の住みよさ向上のための計画論に関する研究　―ジェイコブズ都市論の再評価と日本における適用可能性―』、宮崎洋司・玉川英則、住宅総合研究財団報告書・研究 No.1207
⑯教育改革推進事業「アジア地域の都市問題に関する学際的グローバル教育交流プログラム－ソウル市立大学との学術交流協定の活用・発展－」（2012 年度－13 年度）事業報告書
⑰シンポジウム記録「『一般市街地』のすまいと居住を再評価する　混在性と柔軟性の再

評価」（役割：ゲスト・コメンテータ）、『住総研レポート 2014　すまいろん』、通巻第４号、pp.3-26、2014.7
⑱Boston College の Burns Library に対し、Jane Jacobs へのインタビュー（1990 年）を録画した DVD を 2013 年に寄贈。2014 年７月、同学の審議を経て同館の特設文庫・Jane Jacobs Papers の資料の１つとして正式に納められた。
⑲『都市縮退のプロセスの中での計画市街地の新たなコミュニティ形成に関する研究』（代表：玉川英則）、第一生命財団調査研究助成（2014-15 年度）報告書、2016 年３月
⑳玉川英則　「逆通読　ジェイン・ジェイコブズ」　『ジェイン・ジェイコブズの世界　1916-2006』（別冊『環』22）、塩沢由典・玉川英則・中村仁・細谷祐二・宮崎洋司・山本俊哉＝編、pp.64-76、2016.06

７．ＧＩＳ応用・活用論

①『都市をとらえる　－地理情報システム（ＧＩＳ）の現在と未来』（都市研究叢書・第 12 巻），1996.3,　pp.133-172（第５章）および編集
②「自治体向けＧＩＳ導入マニュアル作成準備作業」　『ＧＩＳ－理論と応用』 Vol.4,No.1, 1996.3,pp.45-52
③『自治体ＧＩＳ活用読本』（ＧＩＳ学会自治体ＳＩＧ報告），1997.11, http://gisa.t.u-tokyo.ac.jp/docs/sig/jichi-j.html
④「自治体における地理情報システム利用の現状と展望」、『総合都市研究』　65 号、1998.3、pp.5-15
⑤「自治体行政におけるＧＩＳの活用」　『高度情報化と都市・地域づくり』（『新時代の都市計画』第６巻）　pp.273-289（第４章第１節）　ぎょうせい　1999 年９月
⑥「韓国の地方自治体におけるＧＩＳ利用の実態」
『地理情報システム学会講演論文集』　第８巻　pp.231-236　1999 年 10 月
⑦「地方自治体における地理情報システムの活用実態に関する日・韓比較研究」　『ＧＩＳ－理論と応用』 Vol.8-No.2, 2000.9,pp.99-107
⑧「アメリカ、ポートランド「メトロ」における成長管理政策とＧＩＳ」　『総合都市研究』74 号, 2001.3, pp.131-145
⑨「ＧＩＳを用いた情報提供システムの計画に関するＣＶＭによる評価実験」　『ＧＩＳ－理論と応用』 Vol.9-No.2, 2001.9, pp.33-40
⑩「利用者の移動費用から見た WebGIS による情報提供の便益評価」　『ＧＩＳ－理論と応用』 Vol.10-No.1, 2002.3, pp.59-66
⑪「GIS 活用の現状と展望　－自治体に焦点をあてて－」、地図研ニュース、第８号巻頭言、2003.5.
⑫「地図配信ＡＳＰを活用した地域情報共有プラットフォームの構築」、地理情報システム学会研究発表大会ポスターセッション発表、2004.10
⑬「フランスのＧＩＳ推進と地理情報学研究　－ＩＧＮを中心に」、『総合都市研究』、第８4 号、2005.3, pp.17-24
⑭「空間情報システム　－成長の過去と成熟の未来」、空間情報シンポジウム 2006 基調講演、2006.7.26.
⑮「都市・地域計画と GIS」　『ビジネス・行政のための GIS』（村山祐司・柴崎亮介編）第 10 章, 朝倉書店, 2008.3, pp.128-138.
⑯「韓国と日本－トップダウン vs.ボトムアップ？」、『GIS－理論と応用』 Vol.16-No.1, 2008.6, 巻頭言
⑰「GIS－基礎と応用」、『GIS－理論と応用』 Vol.16-No.2, 2008.12, 巻頭言
⑱「たかが学際, されど学際」, 『GIS－理論と応用』, Vol.17-No.1, 2009.6, 巻頭言
⑲「査読という創造（クリエーション）」, 『GIS－理論と応用』, Vol.17-No.2, 2009.12, 巻頭言
⑩「待つ」、玉川英則、『GIS-理論と応用』、Vol.19-1 巻頭言
⑪「形が見える瞬間（とき）」、玉川英則、『GIS-理論と応用』、Vol.19-2 巻頭言
⑫「書評　『地理情報科学　GIS スタンダード』」、玉川英則、『GIS-理論と応用』、2015 年 12 月
⑬「アジアの GIS 勃興　日本は次のブレーク・スルーへ」（三角点・・・・・時流を読む（巻頭言））、『測量』Vol.67-N0.2、pp.4-5、2017.02
⑭「立体視・論理・人間　～『モデル』のあとさき」（標定点（巻頭言））、『写真測量とリモートセンシング』Vol.56-No.1、p.1、2017.03
⑮「おわりに　～“GIS” 次のクォーターへ」　『GISA　25 周年記念誌』、p.48、2017.03
⑯玉川英則　「都市のゆくえ　GIS のゆくえ」、(株)インフォマティックス・空間情報シンポジウム 2017　東京会場での基調講演、2017.07.05
⑰Hidenori Tamagawa, “For the Future of GIS and Geoinformatics”, Key note speech for the 20th anniversary of the Department of Geoinformatics, University of Seoul, 2017.11.03
⑱玉川英則　「GIS 活用の将来に向けて － 空間リテラシーという視点 － 」、第２回防災推進国民大会でパネリストとして発表、仙台国際センター、2017.11.26

８．その他（市街地変容、人口移動、交通、持続可能性、コンパクトシティ、震災...）

①『まち・変容のネットワーク　－茨城県下館市の市街地分析から－』　東京大学町並み研究会,1981.12
②「地方都市における衰退エリアに関する考察　その１－衰退エリアの抽出方法及び関東地方の諸都市について」　『日本建築学会関東支部研究報告集』 第 57 号,1986.5,pp.345-348
③「地方都市における衰退エリアに関する考察　その２－中部地方の諸都市に関する分析及び関東地方との比較について」　『日本建築学会北陸支部研究報告集』 第 29 号,1986.6,pp.317-320
④「西日本における地方都市の衰退エリアに関する考察」　『日本不動産学会秋期全国大会梗概集』 No.2,1986.10,pp.39-42
⑤「地方大学を経由する人口移動に関する研究　－新潟大学工学部におけるケーススタディ」『日本建築学会北陸支部研究報告集』第 35 号,1992.6,pp.417-420
⑥「地方大学学生の住居選択・住替えに関しての調査」　『日本建築学会北陸支部研究報告集』 第 35 号,1992.6,pp.279-282
⑦「新潟大学五十嵐キャンパスにおける交通計画」　『日本建築学会北陸支部研究報告集』 第 36 号,1993.6,pp.439-442
⑧「地方都市大学を経由する人口移動に関する研究　－新潟大学教育学部をケーススタディとして」　『日本建築学会北陸支部研究報告集』 第 36 号,1993.6,pp.447-440
⑨「新潟市における新聞折込広告にみられる不動産物件の特性に関する研究」『日本建築学会情報システム利用技術シンポジウム論文集』 第 16 号,1993.12,pp.211-216
⑩「古町地区における歩行者流動と周辺環境の関係について」『日本建築学会北陸支部研究報告集』 第 37 号,1994.6,pp.387-390
⑪「町丁目データによる市街地変容に関する基礎的研究」　『地理情報システム学会講演論文集』 Vol.3,1994.10,pp.69-72
⑫「東京圏における都市型職業に従事する中年シングル女性の居住地選択」
『都市計画論文集』　第 34 号　pp.733-738　1999 年 11 月
⑬「地域の『サステイナビリティ』に関する試論的考察　－東京都内における人口安定地区とそのインプリケーション」　『総合都市研究』　71 号, 2000.3, pp.5-20
⑭「東京圏における人口安定地区の抽出とその年齢構成的特性」　『総合都市研究』　77 号,pp.21-37, 2002.3
⑮『持続可能な都市の「かたち」と「しくみ」』（東京都立大学都市研究叢書・第 23 巻）、2003.2（編集及び第４章「人口の安定性と都市地域」を分担執筆）
⑯*Sustainable Cities: Japanese Perspectives on Physical and Social Structures,* United Nations University Press, Editor and co-author, 2006.7
⑰‘Regional Environment -especially as for “sustainable cities”’, Tokyo-Soeul Joint Seminar 2006, 2006.9.29 (Tokyo)
⑱「東京都区部における避難場所の圏域分析」 地理情報システム学会講演論文集, vol.16, 2007.10, pp. 331-334.
⑲『コンパクトシティ再考』（都市科学叢書・第２巻）　学芸出版社　2008 年 11 月
⑳「コンパクトシティの背後から彼方へ　－「持続可能性」と「意味の密度」との関連において」、『地方自治職員研修』、2009 年 4 月号、pp.40-42
(21)『創造界隈を活動拠点とするアーチスト・クリエーターの実態調査』、横浜市創造都市教育研究補助事業報告書、2009.3
(22)「コンパクトシティの背後から彼方へ　－「持続可能性」と「意味の密度」との関連において」,『地方自治職員研修』, 2009 年 4 月号, pp.38-40
(23)「コンパクトシティの概念と都市モデル」、『不動産学会誌』No.92（Vol.24-1）、pp.18-22、2010.7
(24)「「座ることを拒否する椅子」とコンパクトな都市空間」、『建築の研究』No.201、pp.1-4、2010.10
(25)「中国における鉄道貨物輸送量に影響を与える要因に関する研究」、『地理情報システム学会講演論文集』（CD-R）、2E-4、2010.10
(26) ″The characteristics of rail freight transportation and provincial factors in China″, Lei Wang and Hidenori Tamagawa, *International Journal of Urban Sciences*, Volume 15, Issue 1, pages 47-59, 2011.4
(27) ″A comparative study of the relation between city distribution and transportation energy consumption in Japan and China″, Wang Lei and Hidenori Tamagawa, 2nd International Conference on China’s Urban Transportation and City Planning, Cardiff in UK, 2011.5
(28) ″National land policy and prediction of rail freight transportation energy in China″, Lei WANG and Hidenori TAMAGAWA, Seoul-Tokyo Joint Seminar 2011 “Current Issues on Urban Affair of Capital City Seoul and Tokyo” on 2011.9.26 at UOS in Seoul
(29) ″Case study of preliminary actions for recovery planning in Noda village from the Tsunami″, Taro ICHIKO, Shinji KAWAMURA and Hidenori TAMAGAWA, Seoul-Tokyo Joint Seminar 2011 “Current Issues on Urban Affair of Capital City Seoul and Tokyo” on 2011.9.26 at UOS in Seoul
(29) 「中国における鉄道貨物輸送エネルギーの視点から見た国土・エネルギー政策の評価と課

題」、王雷・玉川英則、都市計画報告集、Vol. 10-2、pp. 67-71、2011.9
(30) 「中国における鉄道貨物輸送量に影響を与える要因に関する実証的研究」、王雷・玉川英則、『都市科学研究』、第４号、
(31) “Interdisciplinary scientific research to realize safety, security, and sustainability in urban areas”, Hidenori TAMAGAWA, Fumiko Ito, Taro ICHIKO, Tanji HOSHI, Kenji TAKEMIYA, Shin AIBA, Kahoruko YAMAMOTO, Motoki NAGANO, ISSUE2011, 2011.11
(32) “Case study of preliminary actions for recovery planning in Noda village from the Tsunami”, Taro ICHIKO, Shinji KAWAMURA and Hidenori TAMAGAWA, ISSUE2011, 2011.11
(33) “A Predicting study on the Rail Freight Transportation in relation to the National Land and Energy Policy in China”, Lei Wang and Hidenori Tamagawa, ISSUE2011, 2011.11
(34) ″What is compactness for the city?″, Hidenori Tamagawa, France-Taiwan-Japan Workshop -Globalization and Urban Dynamics in Asia, Comparative Approaches of Scientific and Politic ″Hot Issues″, at Maison Franco-Japonese in Tokyo, 2011.12
(35) 「少子高齢社会における地域の『サスティナビリティ』に関する考察」, 2012 年日本建築学会大会学術講演梗概集, 岡智史・玉川英則, pp.1025-26, 2012 年９月
(36) ″A report of an action disaster-research for recovery planning in Noda, Iwate prefecture″, Taro ICHIKO, Shinji KAWAMURA and Hidenori TAMAGAWA, Poster presentation for ISSUE at TMU, 2012.11.2
(37) ″A report of an action disaster-research for recovery planning in Noda, Iwate prefecture″, Taro ICHIKO and Hidenori TAMAGAWA, Tokyo-Seoul Joint Seminar 2012 at TMU, 2012.11.3
(38)玉川英則・岡智史、「鉄道の廃線に伴う人口構造の変容分析　－北陸地方におけるケーススタディ」、『地理情報システム学会講演論文集』、2014.11
(39)玉川英則・岡智史、「廃線による都市構造の変容に関する研究」、『CSIS-Days 2014 研究アブストラクト集』（C11）及びポスター発表、2014.11.22
(40) 「岩手沿岸北部被災地復興における地域連携型のコンパクトな居住モデルの導出」　科学研究費・基盤（Ｃ）2012－14 年度成果報告書、2015.07
(41) 「震災被災地における復興支援手法としての提案型学生ワークショップの可能性に関する研究:野田村復興まちづくりシャレットワークショップ４年間のふりかえり」、都市計画論文集 50(3)、379-386、2015 年 11 月
(42) 玉川英則　「コンパクトシティと『時間』」、『Evaluation』、66、pp.11-17、2018.03
(43) 「コンパクトシティと『時間』」、玉川英則、『コンパクトシティを考える』（浅見泰司・中川雅之編）第 11 章、(株)プログレス、2018 年 10 月

９．事典

①『不動産学事典』、編纂委員会小委員及び「不動産の情報分析」の項を分担執筆　住宅新報社　2002.4
②『地理情報科学事典』、編集委員及び項目「都市」の編集及び小項目「都市情報」の執筆、朝倉書店、2004.4.

※この他、基調講演・特別講義・セミナー等。
※都市解析分野の成果をわかりやすく解説するサイト『都市解析ブレークダウン』を作成中（https://www.comp.tmu.ac.jp/tamahp/breakdown.pdf）。

所属学会

日本都市計画学会（アドバイザリー会議委員）、地理情報システム学会（監事）、日本建築学会、日本不動産学会、日本オペレーションズ・リサーチ学会会員

社会的活動

ＧＩＳや地理的データの普及推進関連の講演・セミナー・委員会等
自治体の都市計画、防災関連の委員会・審議会等
岩手県野田村における震災復興支援の CWS

その他

学習院大学経済学部　非常勤講師（経済地理学）　1995.4～2013.3　2015.4～2020.03
東京大学空間情報科学研究センター　客員教授　2000.4～2001.3　同共同研究員　2001.4～